

一般社団法人消費者市民社会をつくる会 (ASCON)

ASCON(阿南 久 代表理事)では、誰もが安心して暮らすことのできる社会の構築を目指し、「消費者力」「消費者市民力」「消費者志向経営力」をつけていくための“対話”と“学びあい”の取り組みを推進しています。

12月3日(月)にはASCON定時総会・防災交流会「助け合って生き抜く!～防災のまちづくり～」を防災や災害対策の専門家も招いて開催し、いつ起こるか分からない災害に対し、自身や家族、友人、そして地域コミュニティを守っていくための学びとつながりをつくるべく、現状の問題点を会員間で共有しました。

ASCON定時総会・防災交流会
助け合って生き抜く!～防災のまちづくり～
2018年12月3日(月)18:45～17:45(参加費1,500円)
※会場は定員に達したため、抽選で100名です。

弊会は、誰もが安心して暮らすことのできる社会の構築を目指し、「消費者力」「消費者市民力」「消費者志向経営力」をつけていくための“対話”と“学びあい”の取組を進めています。

最近、豪雨、台風、地震による甚大な被害が相次ぎ発生し、日本はまさに「災害列島」とも呼ばれています。多くの犠牲者・被害者を出しています。

改めて、ご議論が盛況な会となりました。ありがとうございます。

私たちは、いつ起こるか分からない災害に対し、家族や自分、友人、そして地域コミュニティを守っていくために、学びあひつくりあひる取組を推進していきたいと考えています。

今回の「防災交流会」では、「食料の備蓄」に関する専門家、現地の問題を共有し、学びあひます。多くのみなさまにご参加をよろしくお願いいたします。

【交流会の内容】 ※コーディネーター：阿南 久
 ●「プレゼンテーションと意見交換」
 ①「日本における災害時の食のリスクと日本災害食学会の取り組み」(依頼)
 一般財団法人都市防災研究所 上席研究員 日本災害食学会副会長 守 茂昭 氏
 ②「首都直下地震に消費者は如何に備えるか」(依頼)
 国際農林水産業研究センター 研究戦略室 室長 土居 邦弘 氏
 ③「地域で子どもを守る!あそ防災子ども食堂」(依頼)
 文京子育て不動産 高浜 直樹 氏
 ④「災害情報ネットワークの構築に向けて～生団連の取り組み～」(依頼)
 国民生活産業・消費者団体連合会(生団連) 業務部マネジャー 小川しずか 氏
 ※懇話会(18:00～18:40)では、災害食の提案や発表なども行う予定です



▲阿南 久 代表理事



【プレゼンテーションと意見交換】

- (1)「日本における災害時の食のリスクと
日本災害食学会の取り組み」
一般財団法人都市防災研究所
上席研究員 日本災害食学会副会長 守 茂昭 氏
- (2)「首都直下地震に消費者は如何に備えるか
～フードシステムの視点から～」
国際農林水産業研究センター
研究戦略室 室長 土居 邦弘 氏
- (3)「地域で子どもを守る!あそ防災子ども食堂」
文京子育て不動産 高浜 直樹 氏
- (4)「災害情報ネットワークの構築に向けて
～生団連の取り組み～」
国民生活産業・消費者団体連合会
業務部マネジャー 小川しずか 氏

生団連事務局も登壇させていただきました!

講演要旨

- ①これまでの災害対策委員会の取り組みのご紹介
・マニュアル「大震災への備え事例集」の作成・配布
・HP 「ソナエラボ」の運用
- ②被災地レポート(福島県相馬市・いわき市、広島県呉市)
現地視察で見た課題：支援物資のミスマッチ
人的支援の不足
地元行政の対応のあり方
- ③「生団連災害情報ネットワーク」の構築について
現地の情報を収集・集約し、生団連加盟企業がその
要望に合致する支援を目指す



特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)



西日本に大きな被害をもたらした「平成30年7月豪雨」から半年が経過しました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く復興されることを心よりお祈り申し上げます。

生団連会員であるPWJは、今回の豪雨に際し広島・岡山県で継続中の救助・支援活動について報告する、「PWJ西日本豪雨災害支援活動報告会」を11月17日(土)に開催しました。

“時間の経過とともに報道は少なくなっているが、復興はまだ始まったばかり”



避難所で診療を行う稲葉医師



ボートを使って避難(まび記念病院)



世界的建築家の坂茂氏設計の避難所用「紙の間仕切りシステム」

災害医療について

日本ではどちらも今回初となる、NGOによる病院レスキュー(岡山県倉敷市のまび記念病院)と避難所におけるトレーラー診療(同市園小学校)を行った。日本において「災害医療」は、知識や経験面において十分な体制が取られているとは言い難く、今後NGOの活躍が期待されている分野である。

避難所への物資支援と衛生環境整備

必要なものは日々刻々と変わっていくため、「必要な人に必要なものを届ける」ことの大切さと難しさを実感。また、床に雑魚寝の状態では、埃の舞い上がりなど衛生環境が悪いうえに、プライバシーの観点でも問題があるため、坂茂氏設計の「紙の間仕切りシステム」を設置した。

一般社団法人Smart Survival Project(SSPJ)

NEWS

「生団連災害情報ネットワーク」に共に取り組む、生団連会員である一般社団法人Smart Survival Projectの「スマートサプライ」が、この度、「全国47都道府県のNPO支援団体が選ぶ 第2回社会課題の解決を支えるICTサービス大賞※」で、「大賞」と「災害支援・緊急救援部門 部門賞」を受賞されました。

※全国のNPO支援組織による実行委員会が、ICTサービスの健全な発展と成長を目指し、NPOなどが取り組む社会課題解決のための事業や活動を支えるICTサービスを表彰。

